

# なが～いうんちが動いた

園長室便り



幼保連携型認定こども園 辻ヶ丘幼稚園 永井三亮 17/12/12

10月始めのことです。ある年中の子どもが、「園長先生！ 園長先生！」と目をまん丸くして園長室に駆け込んできました。ずいぶん興奮しています。大変なことが起きていると心配しました。続いてたくさん子どもたちが、異口同音に「カマキリが～」と叫んでいます。どうやら、最初の子を中心にクラス中で大騒ぎになったようなのです。

「落ち着いてゆっくり話してごらん」興奮気味に断片的に話す子どもたちの話を整理すると次のようなことでした。

カマキリをみていたら「おしりから長～いうんちが出てきてね。」「そして、長～いうんちが動き始めてびっくりしたんだよ。」と言うのです。

「嘘でしょう！ 誰が最初に見つけたの？」「〇〇ちゃんが見つけて僕もみた。私もみた。」「すごいな～、すごいのをみたね～。園長先生も見なかったな～」「今も動いていると思うから見て！」「ほんとだね～。すごい、確かに動いているね～。すごいことに気づいたんだね。」「あっ、今思い出した。これはね、うんちではなくてハリガネムシという虫だと思うよ。カマキリのお腹の中で大きくなったんだろうね。」「みんなにも教えてあげたいね。」と言うことで、その日の終礼で、子どもたちの様子やカマキリとハリガネムシとの関係を先生たちに紹介することでした。



この時期、園庭でみつけたり、家庭から持ち込んだりして、たくさんのカマキリが多くの子で飼育されていたのでした。年長さんでも盛り上がっていました。写真の赤で囲んだ所にハリガネムシ(針金虫)がいます。

子どもたちの観察眼にはいつも驚かされます。アゲハの産卵など、誰かの貴重な発見がクラス中に広がります。大事件の勃発です。みんなが納得できる形で何とかしなくてはなりません。できれば感動を伴う形で・・・。

そこでインターネットや書画カメラなど ICT の出番です。先生がインターネットを検索し、短い動画や写真などをクラスのみんで視聴させることで、今度は、自分も本物を自分の目で見てみたいと思うのでしょうか？ そこから自然への興味関心がいろいろな形で生まれ拡大していきます。子どもたちの目はキラキラ輝き、表情は真剣そのもので、圧倒させられる思いがします。時には、子どもたちが自ら気づき発見できるように先生が意図的に仕掛けることも年間指導計画の中で計画されています。

本園では、8年前の平成21年に園内ランを整備し、3歳以上の各学級にパソコン、書画カメラ、デジタルカメラ等を配置するなどデジタル環境を整備し、「第59回九州地方放送教育研究大会鹿児島大会(幼稚園部会)」大会テーマ「デジタルが拓くこれからの学校」の下、「感動から生まれる豊かな発想、意欲的な活動を育むデジタル教材の利活用」のテーマを掲げ、実践研究に取り組みました。そして、22年11月12日には、保育公開・実践研究発表などで取組の一端を公表し、先導的な取組として評価を戴きました。

それ以来、同じテーマで ICT 機器・教材の利活用の日常化に取り組み、今日に至っているわけです。

来年度、「第67回九州地方放送教育研究大会鹿児島大会(幼稚園部会)」の研究に再び取り組むことになり、平成31年2月15日(金)に保育公開・実践研究発表などを行うことになりました。



幼保連携型認定こども園としての3年目を迎える来年30年度は、充実した年度になるのではないかと期待しているところです。

子どもたちの飽くなき好奇心・探究心の芽を大事に育てるべく、とことん付き合っていこうと教職員一同共通認識をもって子どもたちに接して参ります。子どもたちの興味関心や思いを温かく見守っていただきますようよろしくお願いします。